実践事例集

国 語　　話し合いで問題を検討しよう

社 会　　日本の地理的特色と地域区分

数 学　　1次関数の式を求める方法

理 科　　身の回りの物質

音 楽　　合唱「空高く」

美 術　　世界の仮面と出会う

保健体育（体育分野）　　球技(バレーボール)

技術・家庭科（家庭分野）　　健康・快適で持続可能な衣生活

英 語　　Lesson1 “Peter Rabbit” Round4

総合的な学習の時間　　郷土で共に生きる（サロン訪問学習）

国　語	２年Ａ組（男子３人 女子４人）	９月 15 日（木）５校時	授業者：西浦　瑞姫
単元名	話し合いで問題を検討しよう		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	有益な「話し合い」に必要なものはなんだろう？
単元を貫く問い	相手を納得させるには何が必要か？
個別の問い	●説得力ある論証のために必要な要素は何だろう？ ●どのような点に注意して質問・反駁したら良いだろう？ ・ディベートはどんなルールで行うのだろう？ ・話し合いのためにどうメモをとっておけばよいだろう？ 【論題】生徒のネット・ゲーム利用時間を一日 60 分に制限すべきである。 ●論題について、肯定の立場ではどんな論証ができるだろう？ ●論題について、否定の立場ではどんな論証ができるだろう？

２　単元について

【単元観】

本単元は、平成２９年告示「中学校学習指導要領国語編」第２学年「Ａ話すこと・聞くこと」イ「自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること」を受けて設定した。

ディベートの形式で話し合う活動を通して、他者を納得させるために必要な要素について考えさせ、根拠の適切さや論理の展開などに注意して自分の考えを伝えようとする態度を育成したい。

【生徒観】

事前の生徒アンケートでは、「自分の意見を述べるとき、自分の考えと根拠を分けるよう意識している」の肯定評価が 71.5%であったのに対し、「自分の意見を述べるとき、その根拠の適切さを意識して話すことができる」の肯定評価は 57.1%となり、積極的肯定評価をした生徒はいなかった。さらに「自分の意見を述べるとき、論理の展開が効果的であるかを意識して話の構成を工夫している」の肯定評価は 28.6%となり、根拠の適切さや論理の展開については、生徒の意識がそれほど向けられていないことがわかった。

【指導観】　本単元で設定する言語活動：ディベート

根拠の適切さや論理の展開などに注意して学習を進めるために、以下の点に留意して指導する。

①「説得力ある論証」のモデルとしての三角ロジックの提示

主張・根拠・論拠に分けて考えさせることで、根拠が客観的事実に基づいているか、根拠と主張の関連について説明する論拠に飛躍がないかを意識させる。

②根拠の適切さを検討するための「反駁」学習

論証の欠点を指摘する「反駁」を意識させることで、お互いに根拠の適切さにこだわって議論させる。

③協働学習を促進するためのＩＣＴ活用

共同編集機能を活用して協働学習を促進する。

本単元で育成したい「表現力」

根拠の適切さを検討しながら話す／書くことができる。

3　単元の目標

（１）意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕（２）ア

（２）自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ａイ

（３）言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠の関係について理解している。	①「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。	①粘り強く根拠の適切さや論理の展開について検討し、学習の見通しをもってディベートをしようとしている。

5　単元の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	①説得力ある論証に必要な要素について学習する。（教科書ｐ234「論証の説得力を見極める」） ②主張・根拠・論拠の関係に注意して自分の意見を記述する。	○			知技① 主張・根拠・論拠のそろった無理のない意見文になっている。	ワークシート
2	①質問・反論（反駁）の視点を学習する。（教科書ｐ238「質問する・反論する」） ②例題に対する質問を考える。 ③例題に対する反論（反駁）を考える。			○	態度① 例題の論証の説得力について粘り強く検討しようとしている。	行動観察 振り返り
3	①ディベートのルールを確認する。 ②モデルディベートのフローシートをとって勝敗を投票する。					
4・5	①論題を確認する。 ②グループに分かれ、肯定・否定の立論を作成する。 ③相手の立論を想定して反駁を考える。			○	態度① 見通しをもち、必要に応じて分担・協力して、準備を行おうとしている。	行動観察 振り返り

6（本時）	①ディベートのルールと役割分担を確認する。 ②ディベートを行う。 ③投票により勝敗を決める。 ④試合で出た論証について意見を交換する。		○		思判表① 自分の立場に応じて、主張・根拠・論拠の整った立論となっている。	ワークシート
7・8	①前時の反省を生かして立論を修正する。 ②相手の立論を想定して反駁を考える。 ③再度ディベートを行う。 ④投票により勝敗を決める。		○	○	態度① 試合の反省をもとに、より説得力のある立論を作成しようとしている。 思判表① 自分の立場に応じて、主張・根拠・論拠の整った立論となっている。	ワークシート 振り返り ワークシート

6　本時の授業計画

【本時の目標】

自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ａイ

【準備物・使用するソフト】　教科書　ノート　資料集　タブレット（Google classroom）

展開	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し	①前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。	
	本時のめあて　根拠の適切さや論理の展開に注意して試合することができる。	
	②ディベートのルールと役割分担を確認する。	支援分担表・進行表をもとに確認・進行させる。
思考↕表現	主な表現活動 ③ディベートを行う。（１試合２５分程度） 【生徒の姿の例】〔主に質疑・反駁の場面で〕 根拠の不明確な部分や論の飛躍がみられる部分について質問または反駁している。 例）〇〇という主張の根拠は何ですか？ 例）立論で〇〇と言っていましたが、それは違います。なぜなら、～～～だからです。	◇議論の流れを可視化するためにフローシートにメモを取らせる。 ◇議論への参加のため、必ず立論・質疑・反駁のどれか一役はすること、一枚は付箋（意見）を仲間に送ることを意識させる。 支援質問・反駁が難しい生徒については、個別にアドバイスするか、ヒントカードを参考にさせる。

振り返り	生徒の姿 B評価：自分の立場に応じて、主張・根拠・論拠の整った立論となっている。 例）【主張】私は制限をすべきという立場です。【論拠：ラベリング】なぜなら、ゲームは私たちの学力を低下させるからです。【根拠】令和４年度全国学力学習状況調査の結果によると、一日４時間以上ゲームをする児童生徒の正答率は、全くしないと答えた生徒に比べて、全教科平均で１８．８％も低いという結果が出ました。【論拠】ゲームは確かに面白いかもしれませんが、今回の調査ではゲーム時間が長ければ長いほど正答率が悪くなるという結果になりました。中学生の優先すべきことは目の前の娯楽よりも、しっかりと学び学力を伸ばすことのはずです。学力の低下を招くゲームは制限されるべきです。	
	④審判（司会・聴衆の生徒）の投票で勝敗を決定する。 ⑤試合で出た論証について意見を交換する。 ⑥学習の振り返り・次回試合への準備	学力審判に投票の理由を発表させ、議論の質を振り返るよう促す。 ◇フローシートを見ながら議論を振り返り、論証の欠点や、どう反駁すべきだったかを交流させる。

7　成果と課題

【成果】「説得力ある説明」の視点として主張・根拠・論拠の三角ロジックを提示し、立論作成や反駁の際に三点が揃っているかに注目するよう指導した。これによって、感情的な反論や根拠のない自分の感想で論じることなく、相手の立論のおかしい点について指摘する反駁が成立していた。また、試合が自らの立論の質について再考する機会となり、引用した根拠は信頼できるものか、またその解釈は適切であるか、根拠から主張に至る論拠の説明に飛躍はないかを検討することができた。

【課題】ディベートに向けた準備のなかで、資料の収集に予想以上の時間がかかった。また、立論を作成する際に、自分が引用した根拠とその解釈に関わる説明がうまくいかず、自分の考えをうまく聴衆に伝えることができていない場面があった。本単元でディベートを採用した目的は三角ロジックに注目した議論を行うことであったため、資料の収集についてはあらかじめ複数の資料を準備し、その中から選ばせるという方法をとることや、立論を口頭での説明に限らず、それぞれのロジックを可視化したものを全体に共有してそれをもとに質疑や反駁につなげることなど、目的に応じて取り組み方を柔軟に検討する必要があった。

8　生徒の作品等（記述例）

（問）豊栄中学校では、制服の廃止を検討しています。あなたは賛成ですか、反対ですか。立場を明確にして意見を述べなさい。

【授業前アンケートでの記述】
反対です。理由は学校で服は統一したらいいと思うから。
⇒根拠が主観的で説得力に欠ける状態

→

【授業後・定期試験での記述】
僕は反対の立場をとります。
なぜなら、制服は冠婚葬祭で着用できるからです。もし制服を廃止してしまうと、冠婚葬祭の時に着る服がありません。礼服を買ったとしても、冠婚葬祭の時しか着ることができず、少ない回数しか着ることができません。しかし、制服だと冠婚葬祭の時にも、中学校の制服としても使用できるため、使う回数が増え、便利だと思います。だから、中学校の制服の廃止に反対です。
⇒根拠として「制服は冠婚葬祭で着用可能」という客観的事実を用いて説明するように変化

社　会	２年Ａ組（男子３人女子４人）	6 月 30 日（木）５校時	授業者：　山藤　真貴子
単元名	日本の地理的特色と地域区分		

1 本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	「日本」ってどんな国なのだろうか？
単元を貫く問い	自分たちの住む日本の地域的特色って何だろう？
個別の問い	① 日本に山が多いのはなぜだろう？ ② なぜ日本の気候は変化に富んでいるのだろうか？ ③ なぜ、日本では過疎化・過密化が進んだのだろう？ ④ 資源が少ない日本ではどのような産業が発達しているのだろうか？ ⑤ 日本では交通・通信網はどのように発達しているだろうか？

2 単元について

【単元観】

本単元は、学習指導要領（平成 29 年告示）社会地理的分野C「日本の様々な地域」（2）日本の地域的特色と地域区分に当たる単元である。この単元の目的について、中学校学習指導要領解説社会編では、「分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること」とある。この目的を達成するために、「日本」の地域的特色を捉える視点について①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の 4 つが挙げられている。

さらに、この 4 つの視点から、それぞれの地域ごとの特色を理解し、多角的・多面的に各地域の差異や共通点を見いだす活動を通して、適切に地域区分し、表現することが求められている。

このように、本単元は社会科の目的の要である「多面的・多角的な視点」を育成する上でも重要な単元の一つであるといえる。

【生徒観】

本学級の生徒は、真面目で、学習内容をしっかりとノートに書いたり、単元の振り返りで要点を捉えてまとめたりすることが上手な生徒が多い。学習内容も良く定着している。

一方で、多様な意見が出にくい面がある。単元の導入で、「日本」のイメージを聞くと、生徒の多くは「治安が良い」「島国」「山が多い」など、一元的な見方で捉えていた。また、そのような特色が見られる一般的な要因（自然環境、地形など）が理解できていない(知識が少ない)ことも多い。

【指導観】

① 教科書の資料・グラフなどを適切に活用し、多面的・多角的に物事を捉えられるようにする。
② 地域的特色について、一元的な捉え方から、他地域と比較するなどして多面的・多角的に比較し、捉えることができるようにする。
③ どういった地理的特色があると、どのような人口・産業の特色が見られるか、など事象と表出した特色を関連付けて説明できるようにする。

本単元で育成したい「表現力」

〔地理的分野〕

地域の特色について、ほかの地域と比較・関連付けしながら表現することができる。

3 単元の目標

（1）自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解する。
日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。
〔知識及び技能〕

（2）自然環境や人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づいてそれぞれの地域区分を地域の共通点や差異、分布なの携行性に着目して、多面的・多角的に考察し、その結果を表現できるようにする。
〔思考力、判断力、表現力等〕

（3）日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野に、それぞれの項目で見られる課題を主体的に追究させる。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。 ② 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。 ③ 日本の資源・エネルギー利用の現状、内産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。 ④ 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内か土の結び付きや日本と世界の結び付きの特色を理解している。 ⑤ ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し理解している。 ⑥ 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身につけている。	① ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ② 日本の地域的特色を、① 自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	① 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5 単元の指導計画

時	学習内容	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	日本はどのような国だろうか。(導入)			○	態度―①	ポートフォリオ
2	地形から見た日本の特色	○			知技―①	授業ノート
3	気候から見た日本の特色		○		思判表―①	授業ノート プリント
4	人口から見た日本の特色	○	○		知技―② 思判表―①	授業ノート
5	資源・エネルギーから見た日本の特色		○		思判表―①	授業ノート
6	産業から見た日本の特色	○			知技―③	授業ノート
7	交通・通信から見た日本の特色	○			知技―④	授業ノート
8 本時	日本を地域区分しよう	○	○		知技―⑤⑥ 思判表―②	まとめプリント GoogleDocument
9	日本の地域的特色を伝えよう		○	○	思判表―② 態度―①	まとめプリント ポートフォリオ

6 本時の授業計画

【本時の目標】
・日本に関する様々な資料を基に、地域区分の事例を学び、地域区分する技能を身につける。
・①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を地域の共通点や差異に着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。
【準備物・使用するソフト】
まとめプリント、GoogleDocument (classroom「2年社会」に添付)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力 支援 評価
見通し 5分	① 前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 重要語句を簡単に振りかえる。	学力 事前にまとめのプリントを宿題として配布し、ある程度自力で取り組ませる。 支援 宿題で分からなかったところをグループで話し合い、補いあう。
	本時のめあて ２つ以上の資料を比較して、日本を地域区分できる。	
	② 地域区分について説明する。 様々な地域的な特色、まとまりやつながりを見つける。 複数の地図を比較して地域的な特色を関連付ける。	支援 (例)を示し、考えやすいようにする。 同じ地域(日本海側、都市圏、～地方 などの地域区分)で見られる特色はないか、など例を示す。
思考↕表現	主な表現活動 ③ (例)のA・Bに付け加えて「太平洋ベルト」の地域で見られる事象について教科書の資料から選び、GoogleDocumentに記入する(Cのスペースに、関連がある資料を加え、その資料を選んだ理由を説明する。) ④ グループで Document にまとめ、交流する。 ⑤ グループごとに発表する。	支援 ・Document に「例」を示す。 ・個人思考の時間をとった後、グループで協議してまとめる。 評価 発表内容、Google ドキュメント

振り返り ５分	【生徒の姿の例】（B評価） 　僕は、「日本の主な工業地帯・地域」の資料と、「日本の人口密度」の資料を比較しました。「主な工業地帯・地域」の資料から、京浜工業地帯、や中京、阪神工業地帯など「太平洋ベルト」を中心に工業が発達していることが分かります。また、「人口密度」の資料からは、東京、名古屋、大阪の三大都市圏を中心とした地域に人口が多いことが分かります。さらに、「日本の主な川・平野」の資料から、三大都市圏は大きな平野を中心に発達していることが分かります。 　これらのことから、「太平洋ベルト」の地帯は平野があり、人口密度が高いということがいえます。 ⑥ 学習の振り返り 「太平洋ベルト」の地域区分以外の区分もできるか考えてみよう。 　ポートフォリオに「キーワード」と「感想」を記入。	

7 成果と課題

【成果】

・多くの資料の中から適切な資料を選び、各地域の特色を関連付けて説明することができた。

・タブレットを活用することで、地図を効果的に用いることができ、地域区分の特色について比較・関連付ける学習をスムーズに行うことができた。

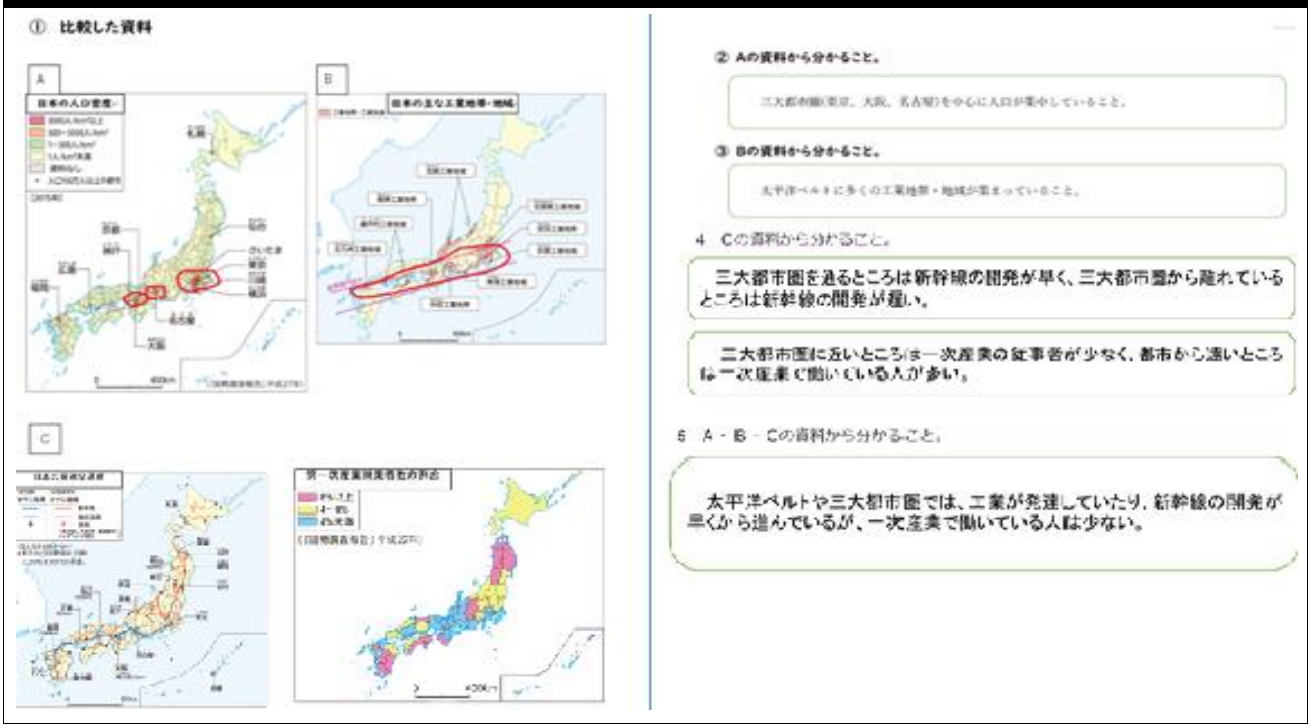
【課題】

・「本質的な問い」や「単元を貫く問い」との関連をしっかりと考えさせながら、単元のまとめに向けて毎時間の授業に取り組むことが重要になる。生徒にも単元全体について見通しを持たせて取り組ませる。

・表現方法について、「発表」だと一方的に話してしまう形になり、「よりよく伝えよう」という意識が低くなる傾向がある。より「伝える」ことに重点を置くなら、ポスターセッション形式など、話し手と聞き手が近い形での表現方法を試してみることもいいと思う。

・評価方法について、記入した量だけではかるのではなく、内容に整合性や客観性があるかどうか総合的に判断できるようにする。

8 授業で使用したワークシート（google ドキュメント）と生徒の記述例



数　学	２年Ａ組（男子４人女子３人）	９月７日（水）５校時	授業者：守岡　新太郎
単元名	１次関数の式を求める方法		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	事象の中に潜む関係とは？
単元を貫く問い	どうすれば関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けられるのだろう？
個別の問い	与えられた条件から切片を求める方法は？

２　単元について

【単元観】

本単元は、中学校学習指導要領 第２学年 C 関数の内容で(1)アの(ア)「一次関数について理解することができる。」を踏まえて設定したものである。

第１学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数として捉え直した。そこでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表し、それらを関連付けながら変化や対応の特徴を考察することや、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを学習している。

第２学年では、第１学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見いだし考察し表現することができるようにすることをねらいにした単元である。

一次関数の学習は比例の学習の発展である。同時に、変化の割合に着目するなど、文字を用いた式によって関数をより深く学習する入口ともなっていることを意識して、指導することが重要となる。

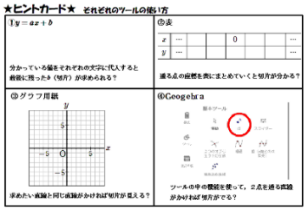
【生徒観】

本学級の生徒は、人数が７名で、男女間の仲も良く「分からないこと」や「苦手なこと」を全体に共有できる雰囲気である。また、毎時間の冒頭に行っている計算のタイムアタックや e ライブラリを使った学習には全生徒が積極的に取り組むなど、学級全体では学習に対する意欲を感じることができる。

一方で、関数の領域については課題を抱える生徒が多く見られる。このことは、先日実施された「数研式標準学力調査 NRT」の結果より、関数の領域の通過率が全国平均が 48.7%に対して本学級では 40.0%と 8.7 ポイント下回っている結果からも明らかである。特に苦手な設問として「比例のグラフの通る点を答える問題」が挙げられる。

【指導観】

①問題解決場面に直面したとき、生徒自身で既習事項に帰着できるような、ヒントカードを用意する。



②切片の分かっていないグラフの提示の仕方を工夫し、考えてみたいと思える問いの設定を行う。

本単元で育成したい「表現力」

与えられた条件から、表やグラフを関連付けて切片を求める方法を説明することができる。

3　単元の目標

①一次関数について理解することができる。〔知識及び技能〕（ア）
②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ることができる。〔知技〕（イ）
③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。〔知識及び技能〕（ウ）
④一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕（ア）
⑤一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕（イ）

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①１次関数について理解している。 ②事象の中には１次関数としてとらえられるものがあることを知っている。 ③２元１次方程式を関数を表す式と見ることができる。 ④１次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 ⑤１次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①１次関数として捉えられる２つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②１次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	①１次関数の必要性と意味を考えようとしている。 ②１次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③１次関数を活用した問題解決の家庭を振り返って検討しようとしている。

5　単元の指導計画

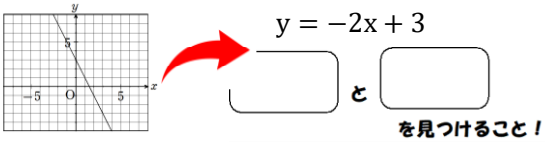
時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	①はじめから水が入っている水そうに一定の割合で水を入れる事象を通して、１次関数の性質を調べる。		○	○	思判表① 態度②	ワークシート 発表 活動観察
2	②１次関数の意味を理解し、yはxの１次関数であるかどうか調べる。		○		知技②	ワークシート 発表 活動観察
3	③１次関数$y = 2x + 3$の表を作成して、xの増加量、y の増加量に着目し、１次関数においては、変化の割合が一定であることを理解する。	○	○		知技③ 思判表①	ワークシート 発表 活動観察
4	④１次関数のグラフがどのようになるかを、点を細かくとって調べ、１次関数と比例のグラフの関係から切片について理解する。	○		○	知技① 態度①	記述・発表 活動観察
5	⑤１次関数の変化の割合は、グラフではどのようなことを表しているか調べ、１次関数の増減とグラフの特徴についてまとめる。	○			知技④	記述・発表 活動観察
6	⑥１次関数の式から、傾きと切片をよみとることで、ｙ軸との交点を決める。次に、傾きを考えることで、１次関数のグラフをかく。	○	○		知技④ 思判表①	記述・発表 活動観察
7	⑦グラフの傾きと切片を読み取って、１次関数の式を求める。	○			知技①	記述・発表 活動観察

8	⑧与えられた条件によって直線の傾きと切片を求める方法を、グラフと表を関連付けて考える。		○		思判表①	ワークシート 発表 活動観察
9	⑨傾きを y=ax+b の一般式に代入、通る点を代入し式を求める。	○			知技⑤	記述・発表 活動観察
10	⑩グラフを通る２点の座標から、１次関数の式を求める。	○			知技⑤	記述・発表 活動観察
11	⑫連立方程式の解を求めるために、２元１次方程式の解を座標に表わし、２元１次方程式のグラフは、y について解くことで１次関数のグラフになることを知る。	○			知技②	記述・発表 活動観察
12	⑬２元１次方程式のグラフを、グラフが通る２点の座標を求めてかく。	○			知技②	記述・発表 活動観察
13	⑭連立方程式の解をグラフをかいて求めたり、２直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりする。	○	○		知技② 思判表②	記述・発表 活動観察
14	⑮基本の問題	○			知技①	記述・発表
15	⑯飲み物がいつまで冷たく保てるかを、説明書をもとにして予想し、その方法を説明する。		○	○	思判表③ 態度②	ワークシート 発表 活動観察
16	⑰具体的な事象の中の２つの数量関係を１次関数とみなして、問題を解決する。	○	○		知技② 思判表②	ワークシート 発表 活動観察
17	⑱具体的な事象の中の２つの数量の関係を１次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決する。	○	○		知技② 思判表①	ワークシート 発表 活動観察
18	⑲図形の辺上を動く点によってできる図形について、面積の変化を調べる。	○	○		知技⑤① 思判表	ワークシート 発表 活動観察
19	⑳単元テスト	○	○		知技　思判表	

6　本時の授業計画

【本時の目標】　グラフと表を関連付けるなどして考えることを通して、傾きとグラフを通る１点の座標から１次関数の式を求めることができる。

【準備物・使用するソフト】　ワークシート、タブレット、geogebra

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し ５分	①　前時までの学習を振り返り、グラフから１次関数の式を求める際のポイントを確認する。  ②　課題を把握する。	支援「傾き」と「切片」の２つの要素が分かれば良いことを押さえる。
	本時のめあて　切片が分からなくても１次関数の式を求めることができる。	
思	③　個人思考する。（切片が分からないグラフ） 【予想される生徒の考え】	学力　geogebra を利用することで、主体的に取り組めるようにする。

考 ↕ 表 現	A. グラフの通る２点の座標を見つける。 B. Geogebra を利用して、同じグラフを作成し切片を読み取る。 C. 傾きだけが分かる。 D. グラフの通る１点の座標から傾きを利用して切片を求める。(xが１増加すると、yは…) E. 表にまとめ変化の様子から予想する。 ④ ペア・グループで思考し、考えを深める。	支援 話型を用意し、分かったことを共有できるようにする。 支援 考えが持てない生徒については、ヒントカードを用意し考えを持てるようにする。 ◇自身の求め方が他者に伝わるように、作成した表や説明相手を意識させる。
主な表現活動	⑤ 条件を増やした問題に取り組む。 （追加条件：geogbra 使用不可、） 【生徒の姿の例】グラフは2点(　、　)と(　、　)を通るので、グラフの傾きは　　です。傾きと点(　、　)を利用して切片を求めました。	
振り返り 5分	⑥学習の振り返り	◇どのような条件が分かれば、一次関数の式が求めることができるのかを自分の言葉で書かせる。

生徒の姿	
B評価	１次関数の式を求める方法を、表・式・グラフのどれか一つを選んで求めることができる。

7　成果と課題

【成果】・生徒に考えてみたいと思わせる問いの設定ができた。
・ヒントカードと話型を用意したことで、説明を書くことができた。

【課題】・１次関数の式を求める説明はできたが数学的用語を使った十分な説明となっていなかった。
切り返し発問を行い、説明をより良くしていくような授業展開にしていきたい。

8　生徒の作品等（記述例）

理　科	1年A組（男子10人女子6人）	6月15日（水）5校時	授業者：　山本　尚輝
単元名	身の回りの物質		

1　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	物質が違う、同じ物体がたくさんあるのは、なぜだろう？
単元を貫く問い	身の回りで物質の違いを利用している場面はどこだろうか？
個別の問い	・物質と物体とは？ ・有機物と無機物の違いは？ ・金属と非金属の違いは？ ・金属の種類を見分けるにはどうしたいい？

2　単元について

【単元観】

本単元は、平成29年7月告示の中学校学習指導要領理科第1分野の内容（２）身の回りの物質　ア身の回りの物質や性質や変化に着目しながら、次のことを理解するともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。イ　身の回りの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。を受けて設置した。

本単元では、身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質あることを見出して理解することを通して、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することをねらいとしている。

【生徒観】

本学級の生徒は、理科の学習に意欲的に取り組むことができる。一方で、前期中間試験において、「思考・判断・表現」の正答率が42.5%であったことから、科学的に物事を思考したり、表現したりすることを苦手としていることがわかる。理科の授業においては、観察、実験などを行い、得られた結果を分析し、解釈したりなどの、科学的に探究する活動を始めたばかりであるため、実験結果から考察に結び付ける力が弱い。そのため、学習と身の回りとの関係を結び付ける力も弱い。

【指導観】

本時の指導に当たっては、科学的に探究する活動の一環として、アルミ缶とスチール缶の性質の違いから、各缶を分別する方法を計画させる。

アルミ缶とスチール缶を使用するのは、物質の違いが生活の中でどのように生かされているか考えることができるからである。今回の授業を通して、同じ物体でも違う物質が使われていることの理由に気づかせたい。また、日常生活で身近に存在する物質から課題を見いだし、その課題を解決する方法を立案し、見通しを持ちながら探究する過程を取り入れることで、学びへの主体性を育てたい。

個人思考からグループ活動を行うことで、自分の考えを広げ、深い学びにいつなげていきたい。グループでの活動では、自分の考えを相手に伝えることが必要なので、豊な表現力が必要である。「表現すること」に関して努力を要する生徒への手立てとして、タブレットで撮影した写真・動画を使って説明させることで、話す以外の表現方法で、豊かな表現をさせたい。

本単元で育成したい「表現力」

観察、実験の結果を「表」や「グラフ」、「モデル」にまとめ、考えられることを説明することができる。

3　単元の目標

（１）　身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。〔知識及び技能〕
（２）　身の回りの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕
（３）　身の回りの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養うこと。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、身の回りの物質とその性質、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①物質の姿について、問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	①物質の姿に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5　単元の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	【課題の把握】 ①　物体と物質とは何か、教科書を使って確認する。有機物・無機物について学習する。 ②　金属・非金属について学習する。	○		○	知技① 態度①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
2	【課題の探究①】 ③　5種類の白い粉の性質を調べる方法を計画する。 ④　5種類の白い粉の性質を調べ、表にまとめる。 ⑤　謎の物質Ｘの正体を探る。	○		○	知技① 態度①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
3	【課題の探究②】 ⑥　アルミ缶とスチール缶のごみの分別が難しいことを伝える。 ⑦　アルミニウムと鉄の性質を調べ、表にまとめる。 ⑧　実験の結果から、簡単に分別する装置を作る計画を立てる。（本時） ⑨　実際に装置をつくり、研究をまとめる。 ⑩　各班の研究の成果を交流する。		○	○	思判表① 態度①	・ワークシート ・テスト ・行動観察 ・振り返りシート
4	⑪　密度について学習する。	○		○	知技① 態度①	・テスト ・行動観察 ・振り返りシート

6　本時の授業計画

【本時の目標】　分別装置を製作する方法を考える過程で、物質には固有の性質と共通の性質があることを見いだし、最適な方法分別方法を思考し、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕

【準備物・使用するソフト】　タブレット・ワークシート・Google クラスルーム・Google ドライブ

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 15 分	①　Google クラスルームにて本時のめあての確認。	◇classroom のストリームに本時のめあてを入力しておく。
	本時のめあて　「☆アルミとスチールの性質を利用した分別方法を考え、ワークシートに記入できる」	
思考↕表現 30 分	②　ワークシートを使って、前時の確認を行う。 【生徒の姿の例】 ・アルミとスチールの違いは、磁石につくか、つかないか。 ・アルミよりスチールの方が重い。	◇ワークシート①～⑥を確認する。 支援記入漏れがないか確認する。 ワークシートの⑥は、班員と確認させる。
	③　ワークシートの⑦「自分の考え」を記入する。 【生徒に提示する条件】 ・１時間の授業で実現可能である。 ・なぜその操作を行うのか理由が書かれている。 ・対照実験の視点を意識する。 ・必要な実験道具が記入されている。 ・危険が伴う実験ではないこと。	◇【生徒に提示する条件】を提示し、個人思考させる。自由にアイディアを記入させる。
	主な表現活動 ④　各班で交流し、ワークシート⑦「班員での意見をまとめると」を記入する。また、次回の実験のための実験計画書を提出させる。 【生徒の姿の例】 ・スチールだけ、磁石に引っ付くので、磁石を使ってスチール缶だけを引っ張る。 ・スチール缶の方が重いので、押しつぶして、水に沈める。	支援ワークシートだけでなく、タブレットの実験スライドや、写真動画を使ってもよいことを伝える。
振り返り 5 分	⑤　学習の振り返り・まとめ	◇本時の学習をふり返り、振り返りシートに記入させる。

生徒の姿	
B評価	アルミとスチールの同じの性質や、違う性質を見いだして、実験方法を立案できている。

７　成果と課題

【成果】

・生徒が主体的に取り組める課題設定であった。

【課題】

・　欠席生徒、30%未満の生徒への手立てに課題が残った。前時の実験の成果がわからないまま授業が進んでいた。
　→生徒の既有知識をそろえておく。欠席生徒への授業外での声掛けを行う。
　　前時の確認を丁寧に行う。ICT を活用して、実験の成果を残しておく。

・　「実験計画書」ではなく「設計図」にするなど、生徒がイメージしやすいワークシートを作成する必要があった。また、段ボール、紐、磁石など分別装置の作成に必要なものを用意しておくこと、写真を撮っておくことなどで、生徒がイメージしやすい環境を作る必要があった。
　→次の授業で、実験計画書は未完成であったが、段ボール、紐、磁石を用意し、分別装置の作成を行うと、さまざまなアイデアが出てきた。

８　生徒の作品等（記述例）

段ボールの底に磁石をテープで固定し、アルミ缶とスチール缶を入れる。ひっくり返すと、スチール缶だけが残る。

実際に作成された分別装置

作成した分別装置をもって、校長室に紹介に行った時の様子

音楽	３年Ａ組・板鍋Ａ学級（男子１０人女子１０人）	９月２日（火）５校時	授業者：　物見　裕子
題材名	合唱「空高く」		

１　本質的な問いによる題材構想

本質的な問い	合唱の楽しさって何？
題材を貫く問い	表現豊かな合唱にするためにどのような工夫ができるだろうか？
個別の問い	・Ｄからに部分をどのように歌いたいか？ ・Ｄからの部分をより魅力的にするためにはどのような工夫ができるだろう？ ・文化祭で披露する合唱を聴いてくださる人にどのような気持ちになって欲しいか？

２　題材について

【題材観】
　この曲は、混声三部で大きくＡ～Ｄで構成されている合唱曲であり、同じ旋律が繰り返し登場する比較的単純な構成となっている。しかし、単純な構成ではあるが伴奏の変化や速度の変化、曲の盛り上がりから曲の持つ魅力を感じることができる曲である。歌詞は、つらいことがあっても夢の実現に向けて頑張ることで道は拓けるという内容である。中学生にとって理解しやすく、共感できる内容であり、表現しやすいと考えられる。

【生徒観】
　本学級の生徒は、課題に対して意欲的に取り組もうとする生徒が多く、合唱に対して一生懸命練習を積み重ねることができる。今年度は、すでに、全校合唱で豊栄中学校歌である合唱曲「未来へ」に取り組み、後輩へ合唱指導する時間を持った。授業中のワークシートからＤの部分の歌い方に対して、94%の生徒が歌詞や、声の音色に着目し、曲にふさわしい歌唱表現になるよう強弱や、身体の使い方など工夫することができている。しかし、曲の山場であるＤ以外の部分の工夫することへの意識が弱い。Ｄ以外の部分を工夫することで、より曲の山場であるＤの部分の魅力が増すことを体感させることを通して歌唱表現の技能を更に身に付けさせたい。

【指導観】
①テーマの設定
　文化祭の全校合唱であることを提示することで先輩としての自覚を持ち、後輩を引っ張っていく歌唱表現の技能や持つ意欲を高める。
②課題解決学習の授業展開
　自分たちの合唱の映像から課題を発見させ、その課題を解決していくための表現の工夫を考えさせる。
③ICT 活用
　個人用タブレットに模範演奏を送ることで何度も聴きたい箇所を聴きどのように歌唱表現を工夫するか考えさせる。
Jam ボードを活用しグループで考えを共有させる。

本題材で育成したい「表現力」
自分の考えや思いを言葉で伝えることができる。その考えを歌で表現することができる。

３　題材の目標

①歌唱に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
②曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解することができる。〔知識及び技能〕
③創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕
④創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕
⑤他者の意見を取り入れながら自分の表現に生かそうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　題材の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、体の使い方などの技能を身に付け歌唱で表している。 ③創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け歌唱で表している。	④音色、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	⑤曲想と音楽の構造に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5　題材の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	①曲の雰囲気をつかむ。 ②曲の構成を理解する。 ③自分のパートの譜読みを行う。				態度①②③	ワークシート
2	①合唱を行い、ハーモニーの重なりを理解する。 ②楽譜に書かれている強弱を意識し、練習をする。	○				ワークシート 観察
3（本時）	①自分たちの合唱を見て、課題を発見する。 ②課題を共有し練習を通して解決する。		○		思判表④	ワークシート 記述・発表
4	①さらに課題を発見し学習していく。 ②全曲を通して練習する。	○		○	知技⑤	観察

6　本時の授業計画

【本時の目標】

Dからの部分をより盛り上げるためにD意外の部分の表現を工夫することができる。

【準備物・使用するソフト】楽譜・生徒用タブレット・模範演奏用 CD・ワークシート

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価学力　支援　評価
見通し 5分	①前時に行った合唱のA～Dの部分の録画を鑑賞し、よりDを盛り上げる合唱にするための課題を見つける。 本時のめあて　Dの部分をより盛り上げるために表現を工夫することができる。 予想される生徒の意見 〇テノールの声がよく聴こえる。 ●息をもっと吸ったほうがいい。 ●もっと声を出したほうがいい。 ●Dをもっと盛り上がらせたい。	支援ペアで話させ、良いところと課題を発見させる。
思考↕表現 30分	主な表現活動 ②「Dからの部分を盛り上げるためにB・Cの表現を音色、テクスチュア、強弱の視点から考えてみよう。」 全員で模範演奏を聴き、Dの盛り上がりを具体的にイメージする。 ③グループごとにDを盛り上げるためにB・C部分をどのように歌ったらよいか考え Jam ボードに入力する。 【生徒の姿の例】Dの部分を柔らかくフワッとしたことで歌いたいと思いました。だから、ここの部分ではよりフワッとした感じを出させるためにテノールの音色は固い感じにさせたいと思いました。でも、あまり固い感じになると曲の雰囲気に合わなくなるから、ソプラノ・アルトのオブリガートは優しい透き通った声にしたいです。	支援 音色、テクスチュア、強弱の具体例を提示する。配布している模範演奏と自分たちの演奏を比較させながら聴き、よりDからの部分を盛り上げるように思考する。 評価 それぞれの音楽の諸要素を視点とし、グループで思考し、発表する。 学力合唱特有の用語を使って説明するように指示をする。 評価合唱の様子を録画する。
振り返り 5分	④グループごとに発表し考えを共有する。 ⑤各グループで考えたことを生かし練習をしていく。 ⑥本来の楽譜を提示し比較しながら作曲者の思いを感じながら合唱する。	構成や歌詞からB・Cの違いに気づかせる。
	生徒の姿 B評価　Dの部分をより盛り上げるための歌唱の工夫を音楽の諸要素のいずれかを用いて考えることができている。	
	⑦学習の振り返り	これから工夫したいことを考えさせる。

７　成果と課題

【成果】生徒のつぶやきや発言から課題を設定し、課題解決に取り組むことができた。録音を聴くことで自分たちの声を客観的に聴くことができ、課題を明確にしたことで課題解決の具体的な考を出し合い、歌唱表現に結び付けることができた。

【課題】音楽科においての思考とは技能と思考を行ったりきたりさせる必要がある。今回の授業では活動が最後になってしまったため、最後まで他のグループの考えを聴くことができなかった。今後は、歌唱の活動を中盤にもってきて、再度録音をして聞く活動を取り入れたい。録音を聴いてみると自分のイメージした歌唱表現と違和感のある個所が出てくる。その思いをどんどん引き出し生徒自らが課題を解決しより魅力的な合唱を作り上げることができると考える。

８　生徒の作品等（記述例）

グループで話し合い、課題解決を行っている様子

グループでの考えを全体で共有している様子

美　術	１年Ａ組（男子１０人女子６人）	７月６日（水）６校時	授業者：森原　陽子
単元名	世界の仮面と出会う		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	仮面が世界中で作られるのはなぜだろう
単元を貫く問い	文化の違いよって形や色の表し方にどんな違いや共通点があるのだろう？
個別の問い	・それぞれの仮面からどんな印象を受けるだろう？ ・どんな形や色彩などの特徴からそのように感じるのだろう？

２　単元について

【単元観】

世界各地にある仮面は、国や地域民族の文化を色濃く映し出すものである。日本や世界各国の仮面を鑑賞し、造形的な特徴や面白さを感じ取るとともにそれぞれの文化に対する理解を深めさせたい。

【生徒観】

本学級の生徒は、自分の考えを積極的に発表しようとする生徒が多い。作品鑑賞においては制作作品以外の鑑賞経験がほとんどないためか、色や形にかかわることばの表現や視点の幅が少ないと感じる。

【指導観】

指導にあたっては作品を比較鑑賞させることでその特徴に気づかせたり、部分を指定して深く考えさせたりする。さらに、意見交流を行うことで一人では気付かなかった視点を見つけたり、似かよった内容が多様なことばで表せることを理解させたりし、自分の表現に取り入れさせたい。

本単元で育成したい「表現力」

感じとったよさや美しさ・表し方の工夫・作者の心情などについて、形や色彩などの特徴や効果を視点に話したり書いたりできる。

３　単元の目標

（１）世界各国の仮面を鑑賞して、形や色材料などの造形的な共通点や違いを感じ取ることができる。

４　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①形や色材料などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、世界各国の仮面を全体のイメージでとらえることを理解している。	①世界各国で作られた仮面の造形的な良さや美しさを感じ取り、形や色材料などの共通点や違いなどについて考えるなどして、見方･感じ方を広げている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく世界各国の仮面の造形的な共通点や相違点を感じ取る鑑賞の学習活動に、取り組もうとしている。

5　単元の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1（本時）	①世界各国の仮面を鑑賞し、それぞれの良さや美しさ、違いや共通点などを感じ取る。 ②感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を深める。	○	○	○	知技① 思判表① 態度①	記述・発表 ワークシート 活動観察

6　本時の授業計画

【本時の目標】

感じとったよさや美しさ・表し方の工夫などについて、形や色彩などの特徴を視点に話したり書いたりできる。

【準備物・使用するソフト】ワークシート　パワーポイント　仮面見本　付箋　カラーペン

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 5分	①『仮面とは何か』について考える。 ②本時の目当てを確認する。	◇実生活に関連づけた例を示す
	本時のめあて　世界各国の仮面を鑑賞し、受けた感じや色や形の表し方の特徴を説明することができる。	
思考 ↕ 表現	③アイマラ（ボリビア）とプレペチャ（メキシコ）の悪魔の仮面を鑑賞し、感じたことや受ける雰囲気を書く。 ④意見交流を行う（全体） ⑤理由になる形や色の特徴を書く。 ⑥意見交流を行う。（グループ・全体）	◇比較鑑賞させることで考えやすくする。 ◇多様な意見を尊重させる。 支援視点の具体例を示す。 学力意見を整理して視点・考え方・言葉を広げさせる。 評価各自の表現を大切にした評価をする。 支援記述・発表の形式を示す。
	主な表現活動 ⑦その他の仮面から一つを選び、印象とその理由を形や色の特徴の特徴をもとに記述する。 ⑧発表しあう。	
	生徒の姿 B評価：受けた感じとその理由を、色や形の表し方の特徴をもとに説明することができる。 例）私は、チョウの仮面から、華やかな感じを受けました。髪に赤や緑の飾りをつけているところからそのように感じました。	
振り返り 5分	⑦学習の振り返り	学力自分の考えたことと話し合いの中から得たことを振り返るよう促す。

7　成果と課題

【成果】

形や色、材料が感情にもたらす効果として、全体から受ける印象とその理由として形や色の特徴を表記、発表できた。

同じ作品を見ても、人により印象や感じることが違うことを理解し、話し合いの楽しさを味わっていた。

感じたり気づいたりしたことについての似た内容でも、いろいろな言い方があることを友達との話し合いから理解していた。また「自分では気付かなかった視点を持つことができた」との生徒の振り返りがあった。

【課題】

全体で共有した言葉や視点を自分の表現に取り入れることが難しい生徒や、口頭では単語で表現できるが文で表記すると難しい生徒に対し、板書などにより細かくポイントを示して視覚的な支援を増やすことも大切であると感じた。また、穴埋め式のワークシートを使用したり、教師が生徒の言葉をつないで文例を示したりするなどして、生徒に達成感を味わわせたい。

また発問の言葉や友達の言葉を、わかりやすい言葉に言い換えたり、わかりやすい記入例を示したりするなど、より実態に合わせる必要性を感じた。

8　生徒の作品等（記述例）等

1 それぞれどんな印象（心に受ける感じ）や雰囲気を感じますか。

	民族：アイマラ（ボリビア）	民族：プレペチャ（メキシコ）
印象・雰囲気	・こわいけど優しそうな感じ ・誰かをびっくりさせようとしている感じ ・虫みたい ・間抜けで少しかわいらしい感じ	・今にも呪いをかけてきそうな感じ ・誰かを恨んでいる感じ ・他のものを馬鹿にしている感じ ・何かを気に入らない感じ

2 どのようなところからそのように感じるのか考えてみよう。

それぞれの仮面の形や色の表し方の特徴を書きだそう

	民族：アイマラ（ボリビア）	民族：プレペチャ（メキシコ）
全体	・派手な色 ・派手な飾りがある ・カラフル	・まっすぐな線がたくさん書かれている ・顔全体が白い
部分	目・丸くて飛び出している ・大きくて瞳に赤や黄色が使われている ・色が派手 ・色が３色	目・細長くて鋭い目つき ・誰かをびっくりさせようとしている ・中心に集まっている ・色が４色
	口・開いている ・大きな鋭い牙がある ・赤くてふくれている ・色は赤、白、銀色	口・閉じている ・歯がギザギザしている ・片方が吊り上がっている ・色は赤、白、黒

	その他の部分 ・角は色がカラフルで表面がぶつぶつ形はグニャグニャしている ・頭の上に３匹の竜	その他の部分 ・角の先に向かって回転しねじれている ・鼻の穴がとても大きい ・鼻がつぶれている

３ 教科書にあるその他の仮面（前の２つ以外の仮面）を鑑賞し、気になった仮面を一つ選び、その印象や雰囲気とどのようなところからそのように感じるのかを、形や色の表し方の特徴として説明しましょう。

私が選んだ仮面は	舞踊劇チャム　　の仮面です
その仮面からは	すごく怒ってこちらをにらんでいるような　　感じや雰囲気が伝わってきます
それは	目が３つもあり、目と目の間に怒った時にできるしわのようなものが　表されているからです

保健体育	１年Ａ組（男子 10 人女子６人）	６月 16 日（木）２校時	授業者：　山本　大空
単元名	球技(バレーボール)		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	球技の楽しさとは何だろう？
単元を貫く問い	バレーボールでラリーを続けるにはどうすればよいのだろうか？
個別の問い	・ラリーを続けるためにはどんな技能が必要だろうか？ ・真上にボールを上げるには腕や足の使い方はどんなことを意識すればよいだろうか？ ・ラリーを続けるためにはどんなルールの工夫が必要だろうか？ ・人と人の間にボールが落ちそうなとき、どうすればよいだろうか？

２　単元について

【単元観】
　バレーボールはコート上でネットを挟んで相対し、ボールをあいている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。第１学年ではラリーを続けることを重視し、ボールの操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防が展開できるようにする。

【生徒観】
　本学年の生徒は、小学校のボール運動でソフトバレーボールを経験している。しかし、バレーボール経験者はいないため、サーブやレシーブなど基本的な技能は低く、ラリーが続かない。そのため、基本的な技能から学んでいく必要がある。

【指導観】
　指導に当たっては基本的な技能を習得し、ラリーを通して攻防を楽しむことができるようにさせたい。そのため基本的なポイントを確認した後にはペアやグループでタブレットを使い、仲間や自分の良いところや課題を見つけ、伝えることができるようにする。
　また、技能の高まりに合わせてゲームのルールを生徒に考えさせたい。

本単元で育成したい「表現力」

自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者に伝えること。

３　単元の目標

①勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。〔知識及び技能〕（１）イ
②攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕（２）
③積極的に取り組むとともに一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ること。〔学びに向かう力、人間性等〕

４　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① バレーに用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて学習した具体例をあげている。 ② 仲間が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	① 提示された動きのポイントを参考に自己や仲間の課題や良いところを伝えている。 ② 仲間と協力する場面で分担した役割に応じた活動の仕方を見つけることができる。	① 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

5　単元の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	①　映像を見せ、試合を楽しむためにはラリーが続けることが大切だと理解する。 ②　学習の目標・特性やルールを説明し今後の流れを理解する。 ③　アンダーハンドサーブのポイントを確認し、ペアでアドバイスをしながら練習する。	○			知技①	ワークシート 行動観察
2	①　アンダーハンドパスのポイントを確認し、ペアで練習する。タブレットで撮影しフォームを確認する。	○			知技①	ワークシート 行動観察
3	①　オーバーハンドパスのポイントを確認し、ペアで練習する。タブレットで撮影しフォームを確認する。	○			知技①	ワークシート 行動観察
4	①　基本練習(サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) ②　グループ練習・簡易ゲーム（スカッシュバレー）	○	○		知技② 思判表①	ワークシート 行動観察
5	①　基本練習(サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) ②グループ練習・簡易ゲーム(ﾜﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞﾊﾞﾚｰ)		○		思判表①	ワークシート 行動観察
6	①　基本練習(サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) ②グループ練習・簡易ゲーム(ﾜﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞﾊﾞﾚｰ)		○		思判表②	ワークシート 行動観察
7（本時）	①　基本練習(サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) ②グループ練習・ゲーム		○	○	思判表② 態度①	ワークシート 行動観察
8	①　実技テスト(アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) ②ゲーム	○		○	知技① 態度①	実技テスト ワークシート

6　本時の授業計画

【本時の目標】チームの課題を見つけ、解決することができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕

【準備物・使用するソフト】図解体育、筆記用具、振り返りシート

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 10分	①　準備運動をする。	教師主導でよく使う筋肉のストレッチや関節の可動域を広げるストレッチをする。
	②　基本練習をする。 ・対面でキャッチボール ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 （1バウンドや徐々に距離を離してパスする練習）	今まで習ったポイントを意識するように声掛けをする。
思考↔表現	③　前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 本時のめあて　前時のゲームを基にチームの課題を見つけ、解決できる。	
	主な表現活動 ④チームの目標を考え、練習メニューや練習で意識することをチームで共有する。 【生徒の姿の例】前回のゲームでは、人と人の間にボールが落ちることがよくあったから、今回は落とさないように人と人の間にボールが来た時のルールを決めよう。	前回の授業での振り返りから目標を決めるように声掛けをする。
	⑤　チームで練習をする。 ・円になって連続パス ・ネットを挟んで連続パス ・ネットを挟んでサーブを取る練習	目標を達成できるような声掛けをする。 ・「何を意識してするの？」
	⑥　試合を行う。	その時の生徒の技能に合わせたルールを設定する。
	⑦　チームで振り返りをする。	
振り返り 10分	生徒の姿 B評価：目標を立てる時に、前回までの授業を振り返りチームの課題を伝えることができる。チームでの振り返りで今日の良かったところや次回へ向けての課題を伝えることができる。	
	⑧　個人で振り返りをする。	振り返りの視点をホワイトボードに書き、自分の成長が分かるようにする。 ・前回よりもできるようになったこと ・友達にアドバイスできたこと

７　成果と課題

【成果】本質的な問いを立てることにより、生徒がめあてを明確にもち取り組むことができていた。また、生徒同士で修正しながら目標に向かって取り組むことができた。

【課題】競技本来の楽しさが失わないような一定の枠組みの中で生徒たちとルールを作る必要がある。チームの課題を考え、練習メニューまで考えさせたが、課題に対して最適な練習メニューが選べていなかった。もう少し単元の中でいろいろな練習メニューに取り組むべきだった。

８　生徒の作品等（記述例）

ワークシートの記入例

①前回のチームの課題→パスが相手の取りやすい場所じゃなかった・パスをするときの声掛けができていない

②本時のチーム目標→高すぎず、低すぎずの高さにパスを上げる

③そのための練習内容→円になって連続パスをする

④意識すること→ワンバウンドとノーバウンドを使い分ける

⑤今日できたこと→ラリーが１番続いた・あきらめずにできた・前回より声掛けができた

⑥次回頑張りたいこと→あまり名前を言いすぎない(ボールをとれない人は言わない)

家庭科	１年Ａ組（男子３人女子４人）	２月 10 日（木）２校時	授業者：　豊田　光美
題材名	健康・快適で持続可能な衣生活		

１　本質的な問いによる題材構想

本質的な問い	「よりよい衣生活」の実現のために何ができるだろう？
題材を貫く問い	資源や環境に配慮して、私たちにできることは何だろう？
個別の問い	・どうして衣服を着るのだろうか？ ・T.P.O.を踏まえた自分らしい服装とは？ ・衣服を購入するときどんな基準があるか？ ・既製服を選ぶときに必要な情報は何だろうか？ ・汚れやほつれに応じて、どんな手入れをすればいいだろうか？ ・自分や家族の衣服をどのように扱っていけば、環境を守り資源を有効に利用することができるだろうか？

２　題材について

【題材観】

本題材は、課題をもって健康・快適・安全で豊かな衣生活に向けて考え、工夫する活動を通して衣服の適切な選択や着用、衣服の計画的な活用、日常着の手入れ、製作に関する知識及び技能を学習する内容であり、これらの学習を基に、これからの生活を展望して衣生活の課題を解決しようとする力を養うことが重要となる。

【生徒観】

本学級の生徒は、自立した衣服選びが可能かという質問に対し、「目的に合わせて衣服が選べる（100％）」、「季節に合わせて衣服が選べる（85.7%）」と高い結果であるが、これまで自分で衣服を選んだ機会に関しては「家族が買ってきたものを着ている（71.4%）」、「個性を表現した服装ができる（14.3%）」ということから、今後生徒が安心して自立的に衣服を選択できる力を養うことが課題と見られる。さらに、着なくなった衣服の処分方法については「着られる人に譲る（85.7%）」と衣服が有効に活用する手段を知る一方で、「捨てる（42.9%）」という結果から、捨てる以外の方法の学習が必要と思われる。

【指導観】

生徒は、成長に伴い新たな衣服を必要としており、既製服の購入で失敗しないために必要な情報を身につけさせたい。指導にあたっては次の点に留意する。

①ワークシートの工夫

生徒には、自分の生活体験や既習事項を振り返り考えさせることで、自分の考えをもたせたい。思考の流れを可視化できるようワークシートの工夫を行う。

②実技による視覚的効果

衣服を選択する際の試着や、素材や汚れの状態に応じた手入れを生徒が実際に行うことで、必要性や工夫点に気付かせたい。

本題材で育成したい「表現力」

実習等の成果を整理し、考察する学習活動や、生活や社会における活動を解決するために、図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどしている。

3　題材の目標

①衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れ及び、製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱いについて理解するとともに、それに係る技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕
②衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
③よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択について理解している。 ②衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 ③製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。	①衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5　題材の指導計画

時	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
1	①健康・快適で持続可能な衣生活を送ることについて問題を見いだし、課題を設定する。 ②既製服を選ぶときに重視する視点を考える。 ③衣服の活用を振り返る。 ④衣服購入の際の注意点を考える。 ⑤既製服を選ぶときに重視する要素とそうでないものの理由を考える。	○	○		思判表① 知技① 態度①	ワークシート 観察
2・3	①衣服の選択について課題を設定する。 ②衣服の働きを考える。 ③遊園地に行くときにふさわしい服装を考え、発表する。 ④グループ内で発表し、選択を見直す。 ⑤組成表示や取り扱い表示等、衣服の	○	○ ○ ○	○	思判表① 態度① 思判表① 知技①	ワークシート 記述・発表 相互評価 記述

	さまざまな表示について調べる。					
4・5（本時）	①自分の日常着の洗濯について課題を設定しグループで話し合う。 ②同様の課題を設定したグループで、それぞれ解決方法を調べたり、実験したりする。 ③学んだことを生かして衣服の洗濯方法を考える。 ④材料や汚れ方に応じた洗濯の仕方について考え、発表し合う。	 ○	○ ○ ○ 	○ 	思判表① 態度① 思判表① 知技②	ワークシート 観察 記述 相互評価
6～10	⑤まつり縫いとこれまで学習してきた縫い方を比べ、まつり縫いの特徴についてまとめる。 ⑥まつり縫いによる裾上げ、スナップ付け等の補修について、その目的と布地に適した方法を考え実習する。	○ ○	 	 ○	知技② 知技② 態度①	ワークシート 記述 実技テスト
11	①手持ちの衣服を点検し、購入から廃棄までを見通した計画的な活用について話し合う。 ②衣服等を再利用した布製品を条件にして、製作について課題を設定する。	 	 ○	○ 	態度① 思判表①	ワークシート 記述・観察 記述
12～19	①再利用する布地の素材や特徴を生かして、自分の生活を豊かにする物の製作計画を立てる。 ②製作計画に沿って製作する。 ③製作した作品について自己評価する。	○ ○ 	○ ○	 ○	知技③ 思判表① 知技③ 思判表① 態度①	製作計画 記述・観察 記述・観察 作品
20	①資源や環境に配慮した衣生活について自分や家族にできることを考える。		○		思判表②	ワークシート 記述・発表

6　本時の授業計画

【本時の目標】
日常着の素材や汚れに応じて、洗剤を適切に用いて、工夫して汚れを落とすことができる。

【準備物・使用するソフト】
ケチャップ　墨汁　ボールペン　綿の実習布　洗剤（洗濯用固形石鹸、洗濯用液体洗剤、洗濯用粉末洗剤、台所用洗剤、洗顔石鹸、漂白剤）　たらい　割りばし　綿布　下敷き用の白いタオル　電子黒板　ワークシート　学習用タブレット PC

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
見通し 5分	①前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。 本時のめあて　服に付いた汚れを落とすコツを見つけることができる。 中学生に身近な衣服の汚れ ❶給食で付いたしょうゆ ❷書道で付いた墨汁 ❸給食で付いたケチャップ	支援　よくある汚れを示し、課題解決

思考↕表現	②それぞれの汚れはどの洗剤で汚れが落ちそうかグループで予測し洗剤を選ぶ。 （洗剤：洗濯用固形石鹸、洗濯用液体洗剤、洗濯用粉末洗剤、台所用洗剤、洗顔石鹸、漂白剤） ③選択した洗剤で汚れを落としてみる。	支援　学習用タブレット PC を用いて調べてもよいと伝える。 支援　汚れの付いた面の下に布を敷き上からたたくことで、汚れを下の布に移すなど方法を示す。 評価　ワークシートの記述、発表内容
主な表現活動	④何がどの洗剤でよく落ちたか確認する。 【生徒の姿の例】（A 評価：材料と汚れに適切に合った洗剤と洗い方についてだけでなく、注意点やその根拠を具体的に示している。） ケチャップは食べ物だから、食器用洗剤を使うと落ちました。しみが付いたまま放っておくと汚れが落ちにくくなるので、付いたらなるべく早く洗うといいです。 墨汁は固形石鹸を付けてもみ洗いをしましたが、完全には落ちなかったです。ゴシゴシと力を込めて洗ううちに生地が伸びでしまいました。汚れを落とすときは、生地の上からブラシなどでたたいて生地を傷めないように気を付けたいです。	
振り返り 5 分	⑤学習の振り返り	学力　洗剤使用の注意点とその根拠を説明させる。 ◇素材と汚れに合った洗剤や洗い方をすることで、繊維を傷めず、汚れを落とすことができる。

7　成果と課題

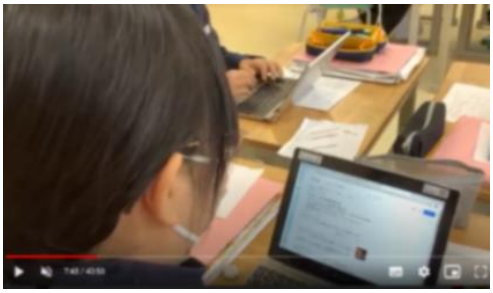
【成果】

衣服に付いた汚れを落とすという課題設定が、生活で遭遇する身近な課題であり、汚れが落ちると目に見えて達成感を得られ、意欲的に取り組めた。また、何をどの洗剤で洗うと汚れを落とすことができ、どんなやり方で汚れを落とすことができたかを説明できた。

【課題】

・引き出したい内容を書きやすいワークシートに見直す。
・発問を増やし対話的な学習形態で思考させる。例えば、水だけでもある程度は汚れを落とすことができるが、「なぜ洗剤を使うか」「汚れが付いた状態で時間が経つと、汚れの落ち具合にどんな影響があるのか」「さまざまな形態の洗剤がある中で、なぜ固形を選んだか」などと問う。

8　生徒の作品等（記述例）



・それぞれの布の素材に合った洗剤や手入れをすることできれいに保つことができると分かった。

英　語	２年Ａ組（男子３人女子４人）	６月２８日（火）１校時	授業者：　島居　瞳
単元名	Lesson１　“Peter Rabbit”　Round４		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	外国語が相手に伝わったら嬉しいのはなぜだろう。
単元を貫く問い	自分の思いを英語で表現するにはどうしたら良いのだろうか。
個別の問い	Round１：英語を聞いて、その内容をざっくり捉えるにはどうしたら良いのだろうか。 Round３：英文を読んで、スラスラ読めるようになるにはどうすれば良いのだろうか。 Round４：語順を意識して読めるようになるにはどうすれば良いのだろうか。 Round５：教科書の内容について発見したこと、思ったことを自分の言葉で伝えるにはどのようにしたらよいのだろうか。 言語活動：「今年挑戦したいこと」のスピーチを通して、ＡＬＴに自分のことをよりよく知ってもらうためにはどのように伝えたらよいのだろうか。

２　単元について

【単元観】

本校では５ラウンドシステムによる指導を取り入れている。教科書の Lesson は年間２単元で構成しており、本単元では Lesson１～4 を扱う。

［内容面］
・物語を読んで感じたことを紹介する場面
・職場体験を通して、将来の夢を発表する場面
・学校行事（林間学校）の様子を伝える場面
・世界遺産や日本と海外の国々との共通点と違いを説明する場面
以上の内容を扱っており、好きな本、職場体験学習、行ってみたい国など身近な話題で話したり書いたり、理由など具体的に考えて、自分の考えや気持ちを伝え合う活動に適している。

［言語面］
・接続詞(if、 that、 when、 because)を用いて状況や場面を述べている。また、I think や I hope などを使って感想を述べているので、発表に向けて自分の考えやその理由を述べる表現につながる。
・不定詞を用いて、やりたいこと挑戦したいことなど具体的に述べたり、目的を明確に伝えたりする表現につながる。
・事物の所在を表す There is/are 構文で新しい情報を相手に提示し、様子等を伝えられる。また不定詞と動名詞の言い換えで表現の幅を広げることにつながる。
・giveAB、 makeAB の用法で、「誰（何）が」「どうする」の主語と動詞を正しく捉えることを意識させる表現で、伝えたい内容を明確にし、説明する力をつける。

【生徒観】

本学級生徒に対して、令和４年６月に実施した質問紙調査の結果は次の通りである。

質問内容	肯定的評価
1.英語の勉強は好きである	85.7%
2.英語の授業以外で英語を使ってみたいと思う。	57.1%
3.外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい。	57.2%
4.英語の授業はよく分かる。	100.0%
5.英語を聞いて概要や要点を捉えるようにしている。	85.8%
6.英語を読んで概要や要点を捉えるようにしている。	100.0%
7.原稿などの準備をすることなく、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	85.7%
8.スピーチやプレゼンなど、まとまった内容を発表している。	57.2%
9.自分の考えや気持ちなどを英語で書くようにしている。	57.1%
10.聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしている。	71.5%
11.聞いたりよんだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりしている。	57.1%

本学級の生徒は、聞き取れた内容の共有や、音読のペア練習での教え合いなど、意欲的に活動に参加し、協力して学習に取り組むことができる。一方で、英文を聞く、読むことには前向きな反面、基礎基本の定着が課題であり、話す、書く活動への不安感につながっている。表現活動の振り返りでも自分の思いや理由等が英語で伝えられないという記述が多く見られ、文レベルのコミュニケーションが苦手であり、発表になると声が小さくなる。そのためまとまりのある内容を話すことは困難が予測される。
このことから、授業では１トピックに対し一問一答のみでスタートしており、英文で答えることに少しずつ慣れてきている。こうして７のコミュニケーションで自信を付けていき、８の発表につなげていきたい。またラウンドを通してインプットの量と質の課題を共有し、家庭学習につなげていく。この繰り返しを積み重ね、まとまりのある内容を ALT に向けて発表し、２、３につながる積極性を育成したい。

【指導観】
　自信を持って発表できる力を育成するために、次の点に重点を置いて指導する。
［Round１］リスニングタスクを変えながら何度も本文の音声を聞き、物語の「状況」や「主な出来事」を捉えることを意識させる。また、英語のリズムやイントネーションの音に集中させ、発表に必要な強弱や間をつかむ。
［Round３］事実発問を通して、何度も音読し内容の理解を深める。新出単語を確認し、音と文字が一致するよう繰り返し練習することで、間違いを恐れず声を出す積極性を身につける。また本文について英語でやりとりをしながら、内容に対して自分の考えを述べ合う場面を作り、英語で伝え合う活動に慣れていく。
［Round４］本文の動詞抜き、並び替えの穴あきシートを使用して言語形式に注目させ、各単元の言語材料の意味・形を理解する。必要に応じて文法事項を扱い、機能に気付かせながら、自己表現につながるフレーズを考えさせ、自分が言いたいことを簡単な語句や文に言い換える力につなげる。
［Round５］本文の内容を振り返る文レベルのやりとりを目指し、英文を組み立てる力につなげる。ピクチャーカードを用いて、即興で本文の内容をリテリングする。言えなかった表現を共有し、内容面、言語面の質を意識させ、表現の幅を広げていく。

外国語科で育成したい「表現力」
英語を用いた活動を通して、英語でコミュニケーションを図っている。

３　単元の目標

「今年挑戦したいこと」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開を考えて話すことができる。

４　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①接続詞、不定詞、there is/are 構文、動名詞の特徴やきまりを理解している。 ②日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を順序良く話す技能を身に付けている。	③日常的な話題について話される文章を聞いて、大まかな内容を捉えることができる。 ④「今年挑戦したいこと」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を順序良く話している。	⑤日常的な話題について話される文章を聞いて、大まかな内容を捉えようとしている。 ⑥「今年挑戦したいこと」について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を順序良く話そうとしている。

５　単元計画

次	時	学習内容 学習活動	評価				
			知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
１	８	Round１：何度も英文を聞き、音声のみのインプットから物語の概要を掴む。教科書のピクチャーカードをストーリー順に並べ替えていく等の活動を行い、物語の「状況」や「主なできごと」が自然と記憶に残るようにする。 Lesson１～４		○	○	思判表③ 態度⑤	後日リスニングテスト
		帯：動詞シート					

2	8	Round3：ラウンド１で大まかな内容理解をした教科書本文を音読する。新出語句を確認する。本文の視写を行う。Lesson１～4					
		帯：読みトレで初見の英文を読み、英問英答、また内容に関連したトピックで Small Talk を行う。					
3	8	Round4：ラウンド３で音読練習したことを、自分の表現に結びつけられるよう、フレーズや言語形成に着目させながら音読練習を行う。Lesson１～4					
		帯：パフォーマンスプロセスシートに沿って言語材料の練習を行う。					
4	8	Round５：教科書のストーリーを自分の言葉で伝えるリテリングに取り組む。Lesson１～4					
		帯：形容詞シート、ペア練習					
		パフォーマンステスト：「ALT に TED の取り組み“「今年挑戦したいこと」の発表”を紹介し、自分のことをよりよく知ってもらおう」	○	○	○	知技② 思判表④ 態度⑥	発表

6　本時の授業計画

【本時の目標】
帯：トピックに関する自分の考えを伝えることができる。（思考・判断・表現/学びに向かう力、人間性）
ラウンド：内容を考えながら、穴あき音読ができる（A→B）（思考・判断・表現/学びに向かう力、人間性）
【準備物】パフォーマンスプロセスシート　Round4 穴あきシート

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価 学力　支援　評価
帯 20 分	①あいさつ、前時の振り返り	学力代名詞の働きを確認する。
	本時のめあて　帯：トピックに関する自分の考えを伝えることができる。 ラウンド：内容を考えながら、穴あき音読ができる。A→B	
	②読みトレ：ペアでインタビュー活動　表現 ・2 分で初見の英文を読み、内容に関する問いに答える（答えの部分に下線を引く） ・トピックをディクテーション“What will you do if Sarah visits Hiroshima? ・4 分でインタビュー活動（音読→内容Q＆A→トピックに関するQ＆A） ・発表→評価 ・3 分でライティング ③　口頭での QA で話の内容を振り返る。	支援Qをスライドで表示する。 学力初見の英文を読み、問いに答える 評価ペアのやりとり 支援文法、表現を提示。T-S のやりとりで、例文を示す。 学力接続詞を聞き取り、when、if などを使って自分の考えを述べる。
ラウンド 25 分	発問例・What did Riku read?・Did he enjoy the story? ・Is he going to read another English book? ・Did Ms. Brown like the story?・What's this? ・Who wrote the story of Peter Rabbit?	支援全体で新出単語の発音を確認し、読めるようにする。
思考 ↕ 表現	④　教科書を見ながら、１度流れを聞く。 ⑤　新出語句の発音と意味の確認をする。 ⑥　文法ポイントの英文を確認する。 ・I read it when I was a child. ・If you want another English book、 I'll～ ・I think that～ . ・They show that～ .	学力Round5 に向けて自分の言葉で表現できるように、教師側が語順やフレーズを意識したQ＆Aや音読をさせる。 評価行動観察（内容を考えながら音読しようとしている。ペア活動）

振り返り5分	・I hope that～ . ⑦　個人練習 ⑧　ペアでＡ→Ｂを練習 【生徒の姿の例】 帯：I will make okonomiyaki for Sarah if she visits Hiroshima. I hope she will like it. ラウンド：内容抜きAシートを使用して音読できる。 ⑨　本時の振り返り	

7　成果と課題

【成果】
帯：ペアで初見の英文を読み、内容に関するＱ＆Ａと関連するトピックで紹介したいもの、場所など自分の考えを伝え合うことができていた。
ラウンド：内容抜きのシートＡを使用し、内容を考えながらペアで音読練習をすることができた。

【課題】
・読めない単語があることで、途中で止まっている状態が見られることから、初見の文章はまず音を聞かせる。またラウンドでは文字と音の一致、音読を繰り返し行い、語彙の定着を図る。
・文法の理解と語彙不足により、即興で自分の考えなどを英文で思うように伝えることが難しい。
・教科書の内容理解で、実態に応じて代名詞や文法の補足説明も必要。代名詞や接続詞にフォーカスしたＱ＆Ａを行い、語順やフレーズを意識し自己表現につながる音読をする。
・内容をより深く考えたり、自分の思いや考えを引き出せたりするようにＱ＆Ａを工夫する。
・動詞、語順や文法表現の定着のため、Ａ＝動詞、Ｂ＝並び替えのシートにする。また穴あき音読の目的を共有し、考えさせて取り組ませる。

8　生徒の作品等（記述例）

生徒の記述
I will go to Miyazima、 because mane
I will go to Miyazama to see 厳島 shrine. I eat もみじまんじゅう
I think that “Itukushima shrine” because tori is beautiful.
I will go to Miyajima because I can see dear. I think that it’s very cute.
I will go to Tom milk farm because I want to see cute animal.
I go to Miyazima food Momigi Manjyuu it derisas. I good Miyagima.
I will go to Miyajima. I will eat momijimanjyu there. It´s good tasty.

生徒の振り返り
・穴あきをして改めて本文の単語と動詞を理解できました。トピックについての会話では理由などが伝えられなかったから、考えていることや望むことを伝えたい。
・広島のよいところを伝えるために発言できた。
・Ａはスラスラ読めた。Ｂはつっかえたり単語が出てこなかったりしたので、しっかり教科書を読んでいきたい。
・穴あき音読はしっかりできました。
・穴あきシートを使ってだいたい覚えて音読できた。
・have はハンドルが付いているの「付いている」の意味もあることが分かった。
・読みトレはスムーズに読んでスラスラ質問に答えることはできなかったけど、教えてもらいながら何とか答えることができました。

総合的な学習の時間	３年Ａ組・板鍋学級Ａ（男子１０人女子１０人）	７月１４日（木）５校時	授業者：T1 物見裕子 T2 山藤真貴子・山本大空
単元名	郷土で共に生きる　（サロン訪問）		

１　本質的な問いによる単元構想

本質的な問い	自分と地域との関わり方についてどう考えるか？
単元を貫く問い	高齢化の進む豊栄で自分に何ができるか？
個別の問い	高齢者にとって何が不自由なのだろう？ 高齢者に話すときに気を付けないといけないことは何だろう？ 高齢者と共に楽しい時間を過ごすために考えないといけないことは何だろう？ 自分はこれからどのように地域と関わっていけるだろうか？

２　単元について

【単元観】

本単元は、１学年時の「地域を知る」（地域調べ）、２学年時の「地域に学ぶ」（職場インタビュー）を受け設定された単元である。学年が進むにつれ、地域との関わりが深まるように計画しており、①生徒が地域の良さや課題を自分のこととして受け止め、地域に貢献することを通して、自己の生き方を考えさせることをねらいとしている。

また、少子高齢化や過疎化等、地域の様々な課題に対して、自分の考えを発信していくことは、地域の将来、また自分の将来に向けて大きな意味を持つと考えられる。②自分にできることは何かを考え、同じ地域で生活している方々とのふれあいを通して、地域を見つめ、故郷である豊栄町の一員として、郷土（地域）を大切にし、誇りに思う心や地域に貢献しようとする心をそだてることを目標としている。以上、この２点をねらいとして取り組んでいく。

【生徒観】

６月に行ったアンケートによると「豊栄町について知識がある」と答えた生徒は７５％、また、「豊栄町の課題がわかる」と答えた生徒は９０％であった。しかし、「地域のために自分ができることを実行することができている」と答えた生徒は５％であった。これらのことからこれまでの学習を知識として理解はしているが、実際の行動に移せる生徒は少ないといえる。

サロン訪問は、コロナの影響で２年ぶりの実施となり、生徒は楽しみに感じ、意欲的に学習に取組むことができている。

【指導観】

生徒が地域の良さや課題を自分のこととして受け止めること、地域に貢献することを通して、自己の生き方を考えること、郷土を大切にし、誇りに思う心や地域に貢献しようとする心を育成したいと考える。これらのねらいを達成するためには相手意識を持って話す必要がある。したがって、単元のねらいの達成に向け、指導のポイントは次の三点である。

①相手意識を持った発表スタイル
・ＩＣＴを活用し、客観的に自分を見る活動
・社会福祉協議会の方を招いたリハーサルの開催
②場に応じた表現力の育成
・多様な発表の機会の設定
・生徒同士の意見交流の場の設定
③情報発信力の育成
・壁新聞の作成
・中国新聞ヤングスポットへの投稿

また、家庭科で「家族・家庭や地域との関わり」や社会科「日本の地域の特色と地域区分」、特別の教科　道徳の「C（16）郷土を愛する態度」など各教科の学習と関連付け、横断的な学習を進めている。

本単元で育成したい「表現力」

相手や目的に応じてよりわかりやすく伝わるように、論理的で効果的な工夫を行うことができる。

より物事や自分自身に関してより深い気づきとなるようにふり返り考えを深めることができる。

3　単元の目標

①自分が持っている力を使って、場に応じた行動をし、人を喜ばせることができる。〔知識及び技能〕
②豊栄の地域に貢献するために自分ができることを考え、実施することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
③地域の人々とのふれ合いを通して、地域の良さや課題、人々の思いを学び、仲間と協働して主体的に課題解決に取組み、地域に貢献しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4　単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
自分が持っている力を使って、場に応じた行動をし、人を喜ばせている。	豊栄の地域に貢献するため自分ができることを考え、実施・表現している。	地域の人々とのふれ合いを通して、地域の良さや課題、人々の思いを学び、仲間と協働して主体的に課題解決に取組み、身に付け、地域に貢献しようとしている。

5　単元の指導計画

月（13時間）	学習内容 学習活動	評価				
		知技	思判表	態度	評価規準	評価方法
5、6（7）	①高齢者の体の不自由さについてふり返る。 ②高齢者に伝わる自己紹介や学校紹介を考える。 ③リハーサルを行う。	○	○	○	知技 思判表 態度	ワークシート 活動観察
7（2）	①サロンを訪問し、サロンの方と交流の時間を持つ。		○	○	思判表 態度	ふり返り
7、9（本時10／13）	①グループごとに実践発表会を行う。 ②実践発表をもとにグループごとに実践内容を壁新聞形式でまとめる。 ③自分と地域とのかかわりについて各自でまとめる。		○	○	思判表	発表 壁新聞 作文

6　本時の授業計画

【本時の目標】実践発表を行い、今後の地域と自分との関わりについて考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
【準備物・共有ドライブ・Jam ボード】

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価　学力　支援　評価
見	①グループごとに実践発表の準備を行う。	

本時のめあて　グループごとに実践発表を行うことができる。

通し 15分	発表の視点 ・サロンの雰囲気 ・自己紹介・学校紹介をしてみて感じたこと ・質問に対しての答え ・今後に生かしたいこと	支援 ふり返り内容と発表内容がリンクするようにしておく。
思考↕表現 20分	主な表現活動 【生徒の姿の例】〇〇サロンは10人で少人数でしたが、和気あいあいととても楽しいそんな雰囲気でした。自己紹介や学校紹介に対して質問をしてくださったりして今の中学校に対してとても興味をもってくださいました。〇〇という質問に対しては△△ということでした。・・・サロンの方は中学生に地域を盛り上げてほしいと思っています。積極的に地域行事に参加をしたいと思います。 ②グループごとにサロンでの実践内容を発表する。 ・Jam ボードを使い、よかった点ともっと詳しく知りたいと感じた点を共有し合う。	評価相手意識を持ち学んだことを分かりやすく発表することができる。
	生徒の姿 B評価　サロンでの体験から今後の自分と地域との関わりついて考えることができている。	
15分	③グループに分かれ壁新聞の構成を考える。	Jamボードで共有した内容を壁新聞のまとめに生かしていく。 ◇ＩＣＴを活用し短時間で分かりやすいものを作るよう工夫させる。

7　成果と課題

【成果】2学年で学習をした高齢者疑似体験等の経験から、今回の学習では高齢者の方々の特徴や配慮すべきことをスムーズに理解することができた。これらの経験により高齢者への話し方や接し方や原稿の作成や話し方の工夫をすることができた。サロンの方々からの事後アンケートから楽しい時間を持つための工夫もできたように思われる。また原稿を文章で作成するのではなく、メモを作成させることにより自分の言葉で相手の様子を見とりながら発表する力もつきつつあると感じる。

【課題】『自分と地域との関わり方についてどう考えるか』という本質的な問いに対して生徒にこれからなんども問い直していく必要があると感じた。自分自身についての自己理解深めていき、今の自分にできることは何なのかということを継続して考えさせる必要がある。地域の抱えている課題も年々変化をしていく中で変化を受け入れ、現状の把握をする力と課題を解決していく力を付けていく必要がある。さらに、考えたことを行動に移せる行動力をつけさせたい。

８　生徒の作品等（記述例）

サロンの方からの評価

①名札がよかった。はきはきとして素直で感じがよかった。一緒にオカリナで歌を歌って楽しい一時を過ごせて嬉しく思いました。

②学校授業やクラブ活動がある中たくさんの準備等用意してくださりサロン関係者一同大変うれしく思いました。なかなか話す機会のない時期、とても親しみやすい働きかけをしてもらって楽しいときを過ごすことができました。道中で出会っても声を掛け合える雰囲気ができたように思えうれしいです。

令和４年 11月 11日　　発行
編集：東広島市立豊栄中学校研究部
発行者：東広島市立豊栄中学校

〒739-2317
東広島市豊栄町鍛冶屋 341－1
Tel　082－432-2351　　Fax　082－432-4540
Mail　toyosaka-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp
HP　https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/toyosaka_chu/index.html